

# みみつ中央通信

「腹立てず、心はまるく、気は長く、おのれ小さく、人は大きく」

これは、一休禅師の言葉で、毎日の行いを営む心構えである。一生が毎日の生活の重ねなら、その一生を充実した悔いのないものにするために、必要だと感じている。

「腹を立てず」とは、「忍辱業（にんにくぎょう）」というそうだ。嫌なことがあってもグツと我慢することである。どうしても収まらないときには「おん腹立てまいニコニコそわか」と口の中で何度もつぶやくというそうだ。怒りの心が解けてくるらしい。

「心はまるく」とは、春ののどかな景色のように、いつも顔色をやわらげて、優しい言葉で人に接することである。「まるい卵も切りようで四角になり、物もいいようでは角が立つ」ではないか。

「気は長く」とは、もつと気を大きく持ちなさいということ。目先のことを一生懸命にすることも大事だが、十年、二十年先のことをみながらすると、きつと上手いく。

「おのれ小さく」とは、決して威張ってはならぬこと。どんなにいい話でも自慢話は、聴いている人を飽きさせてしまう。「人は大きく」とは、自分が褒められても相手や身近な人を立てること。自分の手柄であっても、人の功績にしてあげるくらいの気持ちが大事である。

日常生活やこれからの生活の中で、必ず必要とされるのが人との関わり方、接し方である。学校の中でも、社会に出てからでも必要とされる力である。それなら、今から身に付けておくことが出来れば、人から

好かれ、誰からも愛され、仕事も上手くいくようになる。これは、技術ではなく、心が動かしていることだ。自分に気にならないことがあると腹を立てたくなくなる。

時には、「腹の虫が治まらない」と周りにまき散らす人もいる。これも、すべて心が動かしている。でも、冷静に考えることが出来るようになれば、いろんな考え方が出来るようにもなる。心の引き出しを増やして、どんなことにも腹を立てないようにまずは努力してみよう。腹が立ったことも、「これは、自分に何かを伝え



校長 鈴木利明

## 腹 心 人

だ。しかし、先輩を立てることが出来る芸人は、先輩芸人の後ろにいて、決して自分から自立とうとしない。謙虚なのだ。そして、先輩を立てる。そうすると、かわいがられて、声をかけてもらえるそうだ。

また、二百年も前の話ではあるが、イギリスの元首相ベンジャミン・ディズレーリ伯爵はこんな言葉を残している。「人と話をする時は、その人自身のことを話題にせよ。そうすれば、相手は何時間でもこちらの話を聞いてくれる」

この言葉は、世の中で成功した人や周りから信頼されたり好かれたりする人に共通しているような気がする。コミュニケーションの極意と言って良いかもしれない。そう言えば、自分のことを話す時は、いつまでもだらだらと話を

をして、相手のことなどを考えていかなかったような気がする。反省しなければ・・・。

それにしても、いくらか歳を重ねても、学ぶことが多く修行の日々の連続だ。毎日の生活で新しい発見もあるが、知っていることさえ出来ていないことも多い。本を読んだり、講演を聴いたりすると学んで来たはずなのに、なんと自分がまだまだ未熟なことか思い知らされる。大人になると、色んなことを教えてくれる人がなかなかいない。だからこそ、学生のうちにどれだけのことを学び、実践力を身に付けるかが大事になる。そうやって、素敵な大人になっていくことを考えると、ワクワクしてくる。

誰だって一人一人はみんな優しいのだ。あつ「優しい」という字の真ん中に「心」があった。

# 卒業生の声を聴く会

令和元年8月1日



【黒木崇道（日向）】



【新名樹莉亜（日向工業）】



【沼口夢乃（富島）】



【河埜佑都（宮崎日大）】

毎年、8月の登校日は、「卒業生の声を聴く会」を実施しています。今年も卒業生4人が来校し、在校生に話をしました。4人とも今の高校生活の状況や中学校時代の夏休みから卒業までどんなことをして過ごしたのか。どんなことをしておかなければいけないのかの話でした。4人とも中学時代からたくさんの本を読み、色々な経験を積んできただけのことはあって、構成も話の仕方も立派でした。在校生も言葉一つ一つをメモしながら、話を聞いていました。こんな素敵な卒業生が美々津中学校にいたことを誇りに思い、在校生には中学校生活を全力で楽しんで欲しいと感じました。

# 日向市未来を拓く子ども議会

（8月23日）



3年生の是則さくらさんと黒木ひよりさんが、日向市子ども議会に議員として参加しました。さくらさんは、市長に「日向市の人口を増やすために産業を発達させることについて」、ひよりさんは教育長に「伝統と文化について」質問しました。二人とも歯切れの良い質問で、日向市の課題を良く捉えているなど感心しました。さくらさんは、「議会のことについても学べたし、なかなか出来ない機会だったので参加できて良かった。」ひよりさんは、「はじめて議会場で、市の役員の人達と討論しましたが、場の空気に押され、いつも通りにしゃべれませんでした。」と言っていました。経験や体験は人を大きく成長させます。素敵な経験が出来てよかったです。

## 【2学期 始業式にて・・・】

黒木玲乃さん（1年）

・学力向上 ・読書 ・正しい姿勢

大田彩日さん（2年）

・学習の向上 ・正しい生活 ・部活動

金丸侠悟くん（3年）

・生活習慣 ・即動 ・話を聞く

3人とも2学期の目標が明確で素晴らし決意でした。覚悟を決めると周りが動き出します。目標が達成できるように、自分磨きを楽しみましょう。



子ども達にとって、とても貴重な夏休み。あつという間に終わり、2学期がはじまりました。始業式の際に、稲盛和夫さんの著書『心。人生を意のままにする力』を紹介しました。この本の中で「人生の目的は、心を磨き、他に尽くすこと」だと書いています。心を磨くことは、心を高めることで、日々の学校生活を真剣に取り組み、努力を重ねることです。誰でも出来ることを、やり続けることです。そして、人のため世のために尽くすことです。優しい思いやりの心で感謝する毎日を過ごしましょう。心という木に、ありがとうの水をまいて、笑顔の花を咲かせましょう。

校長：鈴木利明